




林業福島

No. **607**



ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

3

2015

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■木材切り



～美しく伝統ある山村を次の世代へ～

福島県町村会長
湯川村長 大塚 節 雄

皆様方には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。東日本大震災と原発事故からまもなく四年が経過いたします。徐々に復興の兆しは見えつつありますが、今もなお多くの方々が県内外に避難を余儀なくされ、また、農林水産物等への風評被害も根強く残るなど厳しい状況が続いております。

県町村会ではこれまで、本県の再生を図る上で不可欠な森林の除染をはじめ、被災者への支援や復旧・復興に関する要請活動を機会あるごとに実施してまいりました。今後も県内町村及び関係団体との連携を一層強化しながら、震災前の美しく、緑豊かなふるさとを取り戻すため、被災地の声を、思いを訴え続けてまいります。

さて、国土の三分の二を森林が占める我が国は世界有数の森林大国であります。森林は、地球温暖化の防止や国土の保全、水資源の涵養など様々な公益的機能を有し、我々の生活に多くの恵みをもたらす国民共有の貴重な財産です。しかしながら、この森林を守り育ててきた我が国の山村は、過疎化・高齢化や林業従事者の減少、木材価格の低迷など厳しい状況が続いており、加えて本県では、原発事故により放射性物質に汚染された森林の再生を図ることが喫緊の課題であります。

このような中で山村は、国民の生存、国土、文化の基層などを支えるかけがえのない価値に加え、再生可能エネルギーの蓄積や、災害時のバックアップ機能など新たな可能性を有しており、また最近では、都市の若者や子育て世代の中に、経済性や効率性だけでは語ることのできない価値などを山村に求める田园回帰の動きが見られるなど、都市住民の癒しの場としての期待がますます高まっております。

美しく伝統ある山村を日本人の「心のふるさと」として次世代に継承することが、森林の恵みを受けて現在を生きる我々の使命であると考えております。

県町村会といたしましては、今後も全国町村会並びに関係団体と連携を図りながら、山村に活力を取り戻すため全力で取り組んでまいります所存でありますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら	森と生きる……………	7
～美しく伝統ある山村を次の世代へ～	普及指導員通信……………	8
福島県町村会長	森連だより……………	9
湯川村長 大塚 節 雄……………	平成26年度福島県きのごセミナーを開催…	10
「循環社会づくりによる地域再興	◆ 一般財団法人福島県林業会館	
シンポジウム」を開催……………	フォレスト助成金（協賛）事業の募集要項…	11
平成26年度林業普及指導員全体研修会を開催……………	木材市況・派遣職員メッセージ……………	12
平成26年度林研グループ等活動発表会……………	はなしのひろば……………	13
林業研究センターだより……………		5～6

「循環社会づくりによる 地域再興シンポジウム」を開催

福島県CLT推進協議会

平成二十七年一月十七日(土) 会津若松市の会津若松ワシントンホテルにおいて、「循環社会づくりによる地域再興シンポジウム」を、一般社団法人日本CLT協会の主催で、県内で初めて開催しました。行政や林業・建設業の関係者、一般県民約三三〇人が参加されました。

「地域林産業とCLTを起爆剤とした福島からの東北復興・地方創生」をテーマにパネルディスカッションを実施しました。県しやくなげ大使の福留功男エグゼクティブプロデューサーがコーディネーターを務め、パネラーに小泉進次郎内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官、坂本功東大名誉教授、CLT導入先進地である岡山県真庭市の太田昇市長、中島浩一郎日本CLT協会長、菅家洋一県CLT推進協議会事業管理者(会津土建社長)が討論されました。パネルディスカッションでは、軽量で強度が高く、木造高層建築が可

能となり、工期も大幅に短縮できるCLTの利点が紹介されました。林業の地産地消、森林再生、CLTの需要・供給拡大や本県復興などについて活発な意見が交わされました。

■小泉政務官、湯川村や会津若松市CLT共同住宅視察

小泉政務官はシンポジウムに先立ち、県CLT推進協議会が湯川村に建設中のCLT共同住宅や会津若松市神指町の実験用ハウスなどを視察されました。本体が一棟二日という早さで建てられた集合住宅に入り、構造などを確かめて「温かいですね」などと感想を述べられました。市内河東町工業団地のグリーン発電会津も視察されました。

■復興は地方再生の先駆け 小泉政務官、意欲語る

小泉政務官はシンポジウムや視察終了後、報道陣の取材に答え、地方

創生や本県復興への意欲を語りました。

「東日本大震災の被災地の復興は地方創生の先駆けであり一体不可分だ。福島県でバイオマスがビジネスベースで回り始めている。国土面積の七割が森であり、林業の分野で雇用を生み、地域循環型経済をつくることに地方創生の新たな活路を見出すことになる」と語られました。



シンポジウム

CLTとは

CLTとはCross Laminated Timberの略称で、ひき板を並べた層を、板の方向が層ごとに直交するように重ねて接着した大判のパネルを示す用語です。

CLTは一九九五年頃からオーストリアを中心として発展してきた新しい木質構造用材料です。

現在では、オーストリアだけでなくヨーロッパ各国でも様々な建築物に利用されており、また、カナダやアメリカでも規格作りが行われるなど、CLTの利用は近年になり各国で急速な伸びを見せています。

CLTの建築材料としてのメリットは、寸法安定性の高さ厚みのある製品であることから高い断熱・遮音・耐火性を持つこと、また、持続可能な木質資源を利用していることによる環境性能の高さなどが挙げられます。

また、CLTパネルを用いた構法として見ると、プレファブ化や、接合具のシンプルさなどによる施工性の良さや、RC造などと比べた場合の軽量性も大きな魅力です。

日本では二〇一三年十二月にCLTのJAS(日本農林規格)が制定されました。JASでのCLTの名称は、「直交集成板」となっています。

平成二六年度

林業普及指導員全体研修会を開催しました

福島県林業振興課



普及活動発表（県南農林事務所 長谷川孝則氏）と質疑応答

平成二六年度林業普及指導員全体研修会が、二月四日（水）、県林業研究センター研修本館で開催され、林業普及指導員をはじめ林業関係者

等八五名が参加しました。

この研修会では、県内の各林業普及指導地区の代表者七名が、日ごろの普及活動の取り組みについて発表する活動発表会を行っており、今年度は、特用林産を活用した地域づくりの取り組み、森林整備を推進する取り組み、地域産材の利用推進の取り組みなど日ごろの普及活動が報告され、それぞれの発表に対し活発な質疑が交わされました。

午後からは、他県の優れた普及指導活動事例を知り、今後の本県の普及指導活動に活かしてもらおうと、平成二六年度林業普及指導員シンポジウムの関東・山梨ブロックと、東北・北海道ブロックにおいて発表された埼玉県秩父農林振興センターの大澤太郎氏と宮城県登米地域事務所の唐澤悟氏にお越しいただいて、それぞれ「准フォレストスター・プランナー候補者・町職員の三者連携によ

る森林経営計画の作成」、「地域材で「復興住宅」を！」登米市木造災害公営住宅建設推進協議会への支援

」の御講演をいただきました。

その後、県林業振興課渡部主幹から活動発表に対する講評があり、審査の結果、最優秀賞には長谷川孝則さん（県南農林事務所）、優秀賞には佐藤修さん（県中農林事務所）が選ばれました。最優秀賞受賞者の長谷川さんは、福島県で開催される平成二七年度林業普及指導員東北・北海道ブロックシンポジウムに福島県代表として参加される予定です。



県普及指導職員連絡協議会会長から表彰

各農林事務所からの普及活動の発表内容は次のとおりです。

「原木しいたけ販路拡大PR事業の支援について」

県北農林事務所 松崎 明

○「観光わらび園の復活を目指す」

県中農林事務所 佐藤 修

◎「地域振興を目的とした新ブランド商品の育成」

県南農林事務所 長谷川孝則

「会津産木材の利用推進」

会津農林事務所 菊池 徹

「南会津地区のきのこ・山菜の再生に向けた取り組み」

南会津農林事務所 高畑 純

「原木舞茸研究所（川内村）の生産再開に向けた取り組み」

相双農林事務所富岡林業指導所 山田 誠

「いわき地方における森林整備の推進」

いわき農林事務所 川口 知穂

平成二六年度 林業研究グループ等活動発表会

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

平成二六年度林業研究グループ等活動発表会が、二月三日郡山市「福島県林業研究センター」で開催され、県内各地の林業研究グループをはじめ、林業関係者約七〇名が参加しました。



活動発表の様子

この発表会は、県内において自主的な実践活動を行っているグループの活動内容を、各地区毎に発表することにより、今後の各グループの活動の展開に資することを目的に毎年開催されており、今回は六団体から地域材の活用や森林づくり活動、特用林産物の生産を通じた地域活性化

に向けた活動について報告がありました。

午後には、秋田県指導林家の佐々木昭孝様から「魅力ある田舎暮らしについて」と題した講演がありました。佐々木様は、「林業経営は道づくりと人づくり」との理念のもと、壊れにくい作業道づくりを進めるとともに、首都圏の中学生等を対象としたグリーンツーリズムを実践しており、「これからも、林業仲間の交流を糧に次世代への橋渡しできたら最高の幸せです。」と語っていました。



講演する佐々木昭孝氏

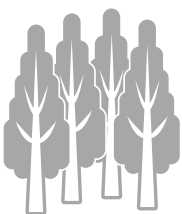
最後に、県林業振興課から各グループ活動発表の講評、審査結果の発表後、表彰式が行われました。審査結果は、次のとおりです。

区分	地区	グループの名称	発表のテーマ
福島県知事賞	県南	県南、「木もれび倶楽部」	地域ボランティアによる森林づくり
公益社団法人 福島県森林・林業・ 緑化協会賞	南会津	藤生わらび生産組合	「藤生わらび山」を中心とした地域活性化に向けた取り組み
福島県林研グループ 連絡協議会長賞	県北	ディ・シー・ツー有限責任 事業組合	地域材を活用した木材製品の開発と地域連携強化への取り組み
	県中	NPO法人ふるさと森林の会	元気が出る林業創出を目指して
	会津	会津自然エネルギー機構	会津の山を動かすべ〜山学校の取組み〜
	いわき	moconoco	県産材を活用した新商品開発

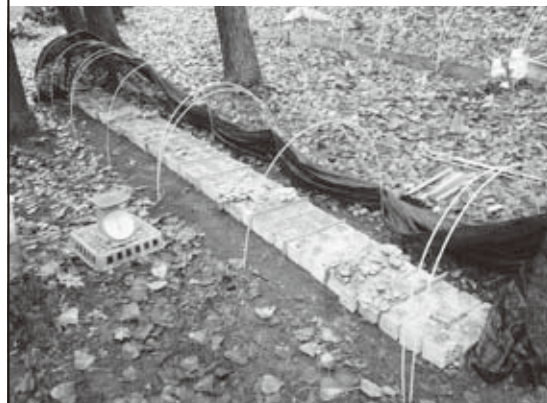
福島県林研グループ連絡協議会 第十四回通常総会の開催

同日、福島県林研グループ連絡協議会第十四回通常総会が開催され、平成二七年度事業計画について次のとおり決定しました。

- 1 第六九回全国植樹祭に向けた活動
- 2 東北・全国規模で開催される各種研修会等への参加
- 3 高校生等に対する林業経営就業体験等事業の実施
- 4 県内で開催される研修会等への参加・支援
- 5 福島県林業祭への出展
- 6 森林・林業ボランティア活動への参加
会員のボランティア活動を支援するため、新たな助成制度を設ける。
- 7 グループ活動等に関する情報の提供



林業研究センターだより 自然環境下で生産可能な 菌床栽培用ナメコ優良品種の 選抜について



選抜試験

福島県林業研究センター
林産資源部長 竹原 太賀司

1 はじめに

自然環境下、野外でのナメコ菌床栽培は、かつてはバラ殺菌によるト口箱栽培が盛んに行われていたが、菌床栽培は、現在では空調施設による周年栽培に移行し、野外では原木による栽培が行われている程度です。しかし、自然環境下での菌床栽培は空調栽培に比べ低コストであるのは勿論のこと、原木栽培と比べてもきのこの収穫までに要する期間が短くて済むというメリットがあることから、普及の可能性は十分にある栽培方法といえます。問題となるのは使用品種で、現在の空調施設栽培用品種(早生系)をそのまま使用するという方法もなくはありません

が、空調栽培用品種は未だ気温が高い十月中旬ぐらいまでにきのこが集中して発生してしまい、良品質のナメコ生産は難しいのが実情です。従って、中生〜晩生で高収量・良品質の系統さえ選抜されれば、農山村地域に広く普及が期待できるものと思われまます。このようなことから、当センターでは、自然環境下で栽培できる菌床栽培用のナメコ品種選抜を平成二二年度から行ってきており、これまでに複数の優良系統を選抜することができましたので、今回、選抜に至る経緯も含め、選抜系統の性質等について紹介します。

なお、この研究課題は、当初、内海主任研究員(現いわき農林事務所)が担当し、その後、長谷川専門

研究員(現県南農林事務所)に引き継がれ、最終選抜まで至ったものであることをお断りしておきます。

2 選抜方法及び結果

供試した菌株は、平成二二年度までに西会津町や柳津町などで採集した野生株十七系統及び平成二二年度に採集した八系統の計二五系統で、これらは主にカシノナガキクイムシ(以下「カシナガ」という。)によるコナラの立ち枯れ木から発生した天然ナメコから分離したものです。通常、天然ナメコはブナの倒木に多く発生することから、かなり奥山に入らないと採集は難しいものですが、この年は、カシナガ被害木から大量にナメコが発生するという珍しい現象がみられたので、このナメコから組織分離して得られた菌株を選抜試験に用いました。

分離した菌株の特性を把握するため行った栽培方法は次のとおりです。

培地組成は、広葉樹おが粉…ふすま…米ぬか10…1…1(重量比)とし、含水率を調整後、フィルター付きの二・五キログラム用PP袋に二袋当たり二〇キログラム充填しました。種菌を接種後、培養は積算温度で一八〇〇度・日を確保し、発生操作は平均気温が概ね二〇度になる頃を見計らい九月中旬〜下旬に行いました。発生操作は培養済

み菌床の菌床表面より上の部分をはさみで切り取り、スギ林内の林床に菌床底部を地表に直接接するように配置し、上部を寒冷紗でトンネル状に被覆して管理しました(原発事故後はパイプハウス内で管理)。

この結果、平成二二年度までに採集した系統については、子実体収量で対照株(N1)と同程度のもものが三株に過ぎず、この系統も形質を考慮すると満足すべきものとはいえませんでした。しかし、平成二二年度に採集した八系統からは子実体収量及び形質を含め優良株が複数認められ、その後選抜試験を繰り返し、最終的に二系統(N22-1及びN22-2)を優良系統と判断しました。

3 選抜菌の特性

選抜した二系統(N22-1及びN22-2)の子実体収量等の栽培特性及び子実体の発生型を表1に示します。

子実体収量は、対照としたN4と同程度か、これよりも一割ほど多い傾向を示しましたが、培地重量比でも、N22-1の収量は培地重量の二五割、N22-2は二二割であったことから、ほぼ満足すべきレベルにあるといえます。

発生型及び形質については、N22-1は十一月中旬から発生する晩生

表-1 ナメコ選抜菌の子実体収量及び収穫期間

系統名	1菌床当たりの子実体収量(g) (平均 ± 標準偏差)	子実体の1個重量(g) (平均 ± 標準偏差)	子実体発生の特性		
			発生期間	日数	評価
N22-1	507 ± 61	4.3 ± 0.9	11/11~12/19	39	晩生
N22-2	441 ± 38	2.6 ± 0.3	11/3~12/1	29	中生
N-4 (対照)	447 ± 33	2.4 ± 0.1	11/17~12/26	40	晩生

- 注) 1 培地重量は2kgとし、各系統とも7個の平均である。
 2 子実体の1個重量は初回発生時の数値である。
 3 発生評価の区分は、初回収穫日を基準として、以下により行った。
 「早生」：初回収穫日が10/20~10/31
 「中生」：初回収穫日が11/1~11/10
 「晩生」：初回収穫日が11/11~

表-2 ナメコ子実体の特徴

系統名	特 徴
N22-1	①子実体は大型 ②傘色は均一でまだらが少ない ③軸は堅くしまっており、外観もきれいである
N22-2	①傘色は濃茶色であるが暗くはない ②軸は明黄色 ③全体的にきれいな印象
N-4 (対照)	形質は全体的に中程度



写真1 ナメコ (N22-1) の子実体

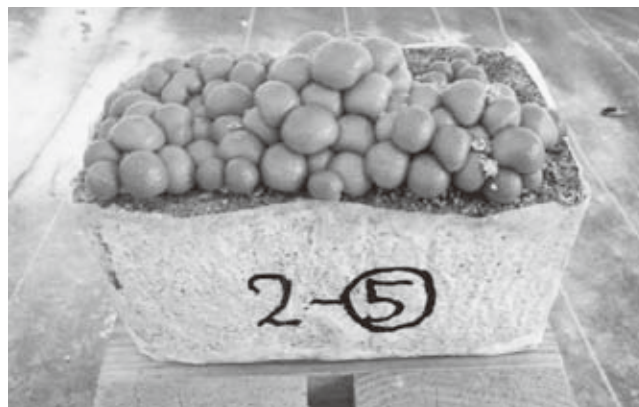


写真2 ナメコ (N22-2) の子実体発生状況

今後は、この二系統について、登録出願の可否について判断を仰ぐなど品種登録の手続きを経たうえで、きのこ生産者に普及を図っていききたいと考えています。

4 おわりに
 これまでに、自然環境下で発生する菌床用の優良系統が二系統（N22-1、2）選抜されましたが、N22-2は安定した収量と発生が比較的早いことを生かした標準的なナメコとしての生産・販売が可能と思われる。一方、N22-1は肉質が堅く大型であるという特長を生かした生産・販売が可能と思われました。また、両者を組み合わせて用いることで、十一月月上旬から十二月中旬まで約五〇日間の発生が可能で

型であり、一個当たりの子実体重量は平均四・六gと大型なのが特徴です（写真-1）。また、全体的に堅くしまっており、傘色は明黄色で、まだらがなく均一でした。一方、N22-2は十一月月上旬から発生する中生型です。子実体の傘色は茶色で、全体的な形質は周年栽培型ナメコに近いものでした（写真-2）。
 以上の特性を、表-2にまとめました。

「森と生きる」

「じねくんの森」 里山再生事業

福島県もりの案内人の会 南会津支部 星 義道



昭和の初期まで開墾され耕作された豊かな田畑は、少子高齢化で放置され、荒れ放題。山林も手入れがされず、獣の住処となり、里山は限界集落となりつつあります。

そんな里山の再生を目指し

再生事業は自己所有地からはじめ、現在は地域住民、地域組織との連携事業として地域に貢献できるフィールド作りを目指しています。また賛同し活動できる仲間を募集し輪を広げたいと思っています。

二〇一一年からの「じねくんの森」構想は

南会津町高野字矢萩原を中心に、馬木場（白桑山林道入り口）、上野原に広がる区域の内五〇、〇〇〇平方メートル（約一五、〇〇〇坪）を十年程の期間でファミリー対象のフィールド化するものです。

※「じねくん」は「自然」を意味する方言

この地方では、自然の力に逆らわ

ず、ゆったりとした時の流れに身を任せながらも自然と共生する、そんな意味の言葉です。

基本となるゾーン（エリア）の構築は

1、広場エリア

サルナシ園メイン広場（一、五〇〇平方メートル）、栗林、松林、萱の原、山小屋とトイレ、駐車場



ビオトープ作り

2、山林エリア

杉林の間伐体験、もりの幼稚園、森の音楽会、フォレストセラピー



広葉樹の間伐と柵木作り

3、農耕エリア

伝統野菜の栽培（無農薬野菜・ほおずき・サルナシ・雪下野菜）
広葉樹間伐材の活用でキノコ作り、山菜の栽培と採集・販売



伝統野菜の栽培

4、源流エリア

自然観察会、源流保全保護（イワナ・ホタル・トンボ・チョウ、モリアオカエルなど）、川遊び



自然観察会 これらの活動は森の生物多様性の再生でもあります。

などとし、それぞれのエリアでの活動を指すものです。

里山には、林、草原、水辺など様々な環境がモザイク

ク状に存在します。人が適度に手を入れることによって生物の多様性も高まってきます。「じねくんの森」の広場に水の溜まり場を作っただけでサンショウウオ・ゲンゴロウ類、ルリイトトンボなどのトンボ類が集まり、草地にはミヤマシジミやヒメシジミなども見ることが出来ます。

少しずつ、「じねくん」と、今後も続けます。

この再生事業は、地域の人々も含め、失われたコミュニティの再生でもあります。「じねくんの森」が地域に貢献できるフィールドになることを夢見て事業を続けます。もりの案内人の皆様も活用できる森づくりを続けます。

ご協力、ご指導、ご参加をお待ちしています。

南会津産きのこの再生に向けて

■南会津農林事務所

林業普及指導員 高畑 純

「南会津は、放射能関係ねーべ」、「うちのきのこは検査（緊急時モニタリング検査）しなくても大丈夫だから」。

南会津では、以前、一部のきのこ生産者からこんな声が聞こえてきました。南会津地域の東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の度合いは、県内他地域に比べると小さく、一昨年までは、下郷町のこしあぶら以外の品目は出荷制限が全くかかっていない地域でした。このことで、南会津地域は放射能汚染とは無関係と思われてしまったのかもしれない。

しかし、震災から3年目の平成25年、事態は急変します。5月に南会津町のこしあぶらが、秋には下郷町、只見町の野生きのこが基準値を超過し、出荷制限が指示されました。これにより、観光客の栽培きのこ買い控えや、取引停止などの問題が発生しました。

また、南会津地域では、味も濃く食感も野生に近いと言われる露地による原木きのこ栽培が大部分を占めますが、生産資材である原木が指標値を超えることもありました。さらに、伐採したブナにその場でなめこの菌を接種する伝統的な栽培方法においては、震災後、自ら栽培を断念する生産者もいました。

こうした課題を踏まえ、当所では、安全なきのこ栽培や出荷販売に向けたモニタリング検査の方法などについて、正確な情報の周知徹底を図ることにしました。また、山菜、野生きのこの出荷制限指示は、指示が出された当該年のみでなく解除となるまで継続されます。一日でも早く販売が再開できるよう、出荷制限解除に向け、町村、地域住民の協力のもとに取り組むこととしました。

まずは、栽培きのこの出荷販売のためのモニタリング検査について、資材生産者、きのこ生産者、直売所等の販売者、JA、町村担当者など、全ての関係者に対して、座談会、説明会、情報交換会を開催するなどして周知徹底を図りました。

次に、主な直売所や道の駅などの販売拠点にこまめにチラシ配布を行い、販売者に加え観光客等の消費者にも周知を図りました。

そして、生産者へのきめ細やかな支援として、生産資材の回収や検体（おが粉）の作成、発生したきのこの回収などを行い、南会津地域に多い高齢の生産者でも確実にモニタリング検査を受けることができるようにしました。

以上の取り組みにより、生産、流通、販売、どの分野においても同じように安全安心を認識していただけるようになったと思います。

なお、野生きのこについては、出荷制限によって採取者が減り、検体確保が困難となっていますが、町村担当者や地域の方々と協力して1品目でも多く出荷制限が解除となるよう引き続き取り組みを進めていきたいと思っています。

南会津地域は、山菜やきのこ類の宝庫として古くから知られています。そして、きのこを生産している人の割合は住民の200人に1人にもなります。地域に密着した山菜、きのこ産業の存続と再生を図るため、今後も出荷制限の解除に向けた取り組みや、安全なきのこ栽培の指導に努めていきたいと思っています。



生産状況（南会津町林内伏せ込み）



接種後、培養状態の確認

森連だより

全国森林組合 代表者大会開催

国産材の利用拡大と
森林・林業・山村の再生を目指して
—林業の成長産業化で地方創生を—



去る十一月十三日、東京都内砂防会館を会場に全国森林組合連合会が主催した全国森林組合代表者大会が開催されました。
当日は、会場内に「森林組合の歌」がBGMで流れ、今井林野庁長官をはじめとしたご来賓が多数出席されました。

- 大会会場に掲げられた次の八つの柱からなる国産材の利用拡大と森林・林業・山村の再生を目指した大会決議は、満場一致で承認されました。
1. 林業の成長産業化を実現し、組合員の所得向上
 2. 森林吸収源対策等に必要国・地方の安定財源確保
 3. 平成二七年度林業予算確保と森林整備加速化・林業再生基金事業の延長・拡充の実現
 4. 主伐・再造林による森林資源循環システムの構築
 5. 新たな森林保険制度の円滑実施



- と加入促進
6. 震災復興と東電原発事故による林業被害対策
 7. TPP交渉における合板・製材等関税の維持
 8. シウッドファースト社会の実現を通じ、日本林業の活性化

大会は、参加者全員で「JForest 森林組合綱領」を唱和し、主催者である全国森林組合連合会佐藤代表理事会長の挨拶の後、日本の森林を守り、地球温暖化防止や地域社会の活性化等に対する国民の期待に応えるため、「ウッドファースト社会（木材を優先して活用する社会）の実現」に向けた行動宣言が、全国森林組合連合会長と全国木材組合連合会長によって宣言されました。

また、「意見表明（全国から代表三名）」として、ふくしま中央森林組合吉田参事が「震災復興と東電原発事故による林業被害対策について」をテーマとして発表を行いました。

参加者は、未だ根強く残る本県の風

評被害に立ち向かい、それに打ち勝つために術を見つける「誓い」と復興への「覚悟」を語った吉田参事の話を真剣なまなざしで聴き入っていました。

結びに、全国で森林組合系統の永年にわたる功勞に対し、功勞者表彰五四六名（本県三三名）、感謝表彰二団体、五五名（本県二名）の方々に全国森林組合連合会長より表彰状ならびに感謝状が授与されました。

本県の被表彰者は、次のみなさまでしたのでここに紹介いたします。

全国森林組合連合会長表彰

- 永年勤続役員（十二年以上）
- 丹野 駿一（福島県北）
 - 紺野勝一郎（福島県北）
 - 安藤 嘉一（田村）
 - 半谷 理孝（田村）
 - 高野 勝志（西白河地方）
 - 鈴木 茂治（西白河地方）
 - 森 吉正（西白河地方）
 - 武藤 寛（会津北部）
 - 安部 良信（会津北部）
 - 田中 久義（会津北部）
 - 渡部 修（西会津町）
- 永年勤続職員（三十年以上）
- 佐瀬 悟（会津若松地方）
 - 小島 晃（会津若松地方）
- 永年勤続職員（二〇年以上）
- 村上 幸次（福島県北）
 - 田村 秀和（田村）
 - 佐藤 仁美（田村）
 - 川島 保彦（会津若松地方）
 - 竹岡 秀和（相馬地方）
 - 浜内 宏（相馬地方）

永年勤続技術班員（五年以上）

- 丹治 直樹（福島県北）
- 本田 善人（福島県北）
- 丹野 雅弘（福島県北）
- 佐藤 久吉（福島県北）
- 吉田 一郎（ふくしま中央）
- 吉田 安定（ふくしま中央）
- 今泉 隆男（ふくしま中央）
- 遠藤 徳雄（田村）
- 白石 善吾（田村）
- 今泉 文明（田村）
- 水野 正好（東白川郡）
- 陣野 忠夫（東白川郡）
- 遠藤 正春（双葉地方）
- 目黒 和男（相馬地方）

感謝状贈呈者

- 退任役員
- 代表理事組合長 相良 弘（飯館村）
 - 代表理事組合長 渡邊 一夫（ふくしま中央）



意見表明を行う
ふくしま中央森林組合 吉田昭一参事

平成二六年度福島県きのこセミナーを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

当センターが事務局となっている

福島県きのこ振興協議会では、平成二七年一月十九日(月)、福島県農業総合センターにおいて平成二六年度福島県きのこセミナーを開催しました。きのこ生産者、県・市町村、各種団体等から約一〇〇名が参加し熱心に受講されました。今年、東京電力の原発事故後、四回目的のきのこセミナーとなり、これからのきのこ栽培のあり方を探る目的で、テーマを「福島県きのこ栽培を考える。」としました。福島県きのこ振興協議会の熊谷建一会長の開会挨拶に始まり、福島県農林水産部林業振興課主幹兼副課長の渡部正明氏より祝辞を頂戴いたしました。

最初の演題は、「原木栽培の現状と復興への課題」と題して一般財団法人日本きのこセンター 関東・東北支社長の片庭将道氏から、県内外の出荷制限等の状況と各県の対応、国の安全・安心対策と東日本地域での原木しいたけ早期完全再生に向けた取り組み状況などの講演をいただきました。

ました。

次に、森産業株式会社の一場西一氏による「しいたけ菌床栽培の現状と課題」のタイトルで県内での取組事例を紹介しながら菌床施設栽培の品種を使用した栽培上の注意点とポイント、大規模施設経営のノウハウ等について講演をいただきました。次に、「しいたけ栽培における放射性セシウム汚染抑制の試み」のタイトルで福島県林業研究センターの武



平成26年度福島県セミナーの様子(郡山市)

井利之氏より、しいたけのセシウム汚染のメカニズムと吸着剤による防御方法及び効果、野外きのこホダ場での各種表土被覆資材の効果試験結果等について講演をいただきました。

最後に、株式会社オー・エス・エフの穴田邦夫氏による「県内のきのこ栽培の復興への取り組み」として県内の栽培者の近況を紹介しながら再開への取組、販売環境の整備等についての講演をいただき、全ての演題が有意義なものとなりました。

今回は、昨年までの風評対策や販売に重点を置いたセミナー内容から栽培者の復帰、きのこ生産体制の拡充を目指す目的で栽培技術セミナーを開催しました。放射能汚染の現状や対応策を熟知し、安全・安心マニュアルに従って生産すれば必ず売れることを実感し始めてきた昨今、出席した生産者は以前に増して栽培に意欲的になったように感じられました。今後とも当協議会は、県きのこ産業の早期完全復興に向けて積極的に支援してまいることとしております。

ふくしまの恵みPR支援事業を実施しました

福島県きのこ振興協議会

- 1 期日 平成26年12月5～6日、12～13日、17～18日
- 2 場所 東京都「日本橋ふくしま館(ミデッテ)」
- 3 出品者 福島県椎茸原木再生をめざす会
(有)ハッピーファーム
JA全農福島シイタケ販売協議会
(有)小川きのこ園
(有)すずき農園

4 消費者の意識

アンケート調査では、「福島県きのこ」に対する消費者の意識は「安心して消費している」が95%と高い結果となりましたが、若年層からは不安の声も聞かれたので、安全への取組についてさらにPR等が必要と感じました。



PR販売の様子

平成27年度

一般財団法人福島県林業会館 フォレスト助成金(協賛)事業の募集要項

1. 趣 旨 一般財団法人福島県林業会館（以下「林業会館」という。）は公益事業としてフォレスト助成金（協賛）事業を募集する。
2. 総 額 4,500千円
3. 募集事業の内容
 - (1) 対象事業
イ. 森林の整備 ロ. 木材の利活用 ハ. 特用林産の振興 ニ. 森林・林業教育学習
ホ. 森林とのふれあい推進 ヘ. 森林・林業に関するその他必要と認める事業
 - (2) 事業費
一事業あたりの助成金（協賛）額は、原則として20万円以内とする。
4. 助成（協賛）対象者
 - (1) 県内の林業に携わる県内所在の団体であること
 - (2) 交付条件を遵守することが確実であること
 - (3) 交付金によって目的事業を実施することが確実であること
5. 申請方法
 - (1) 申請手続 事業の目的、内容、交付申請額を林業会館事務局まで提出する。詳細は事務局まで。
 - (2) 事業の実施期間 平成27年4月1日から1年以内
 - (3) 受付期間 平成27年4月1日から5月末日まで
6. 事業の採択決定 林業会館が設置する「フォレスト助成金審査委員会」で選定します。
7. 応募先 〒960-8043 福島市中町5番18号 一般財団法人福島県林業会館事務局あて
TEL・FAX 024-522-2407



平成26年度フォレスト助成金認定先

(単位：円)

No.	事業者	事業名	助成金額
1	NPO法人福島環境カウンセラー協会	里山森林材の利活用と環境教育	200,000
2	NPO法人会津の文化づくり	土津フタバアオイプロジェクト	100,000
3	山森沢桃源の里管理運営委員会	里山公園造成事業	200,000
4	青木山を守る会	青木山の環境等調査、保全、活用及び森林と人々とのふれあい推進	200,000
5	一般社団法人IORI倶楽部	地域木材需要拡大PR事業	200,000
6	うつくしま21森林づくりネットワーク	森林ボランティア団体活動支援事業	80,000
7	NPO法人いわきの森に親しむ会	栗園跡地再生整備事業	200,000
8	塔寺山いこいの森百年委員会	塔寺山いこいの森整備（植栽等）周辺整備（植栽）	200,000
9	夕日ヶ丘森花倶楽部	(1) 森林の整備 (2) 森林とふれあい推進	100,000
10	美里自然楽校	美里自然楽校	195,800
11	癒しの杜、中倉山を作る会	森林整備事業	50,000
12	高子沼を楽しむ会	森林整備事業	200,000
13	特定非営利法人小野自然倶楽部	緑とのふれあいの森公園キャンプ体験	200,000
14	貝泊コイコイ倶楽部	桜の森公園下刈整備	100,000
15	NPO法人遊歩自然倶楽部	森林環境教育学習事業	100,000
16	NPO法人松川浦ふれあいサポート	大森里山の利活用と整備の継続事業	180,000
17	合同会社地球と家族を考える会	ふくしまの家KUMIKO木の家講座〈森の木が家になるまで2014〉	120,000
18	NPO法人みんなの遊び塾によきによき	未来のふくしま里山交流事業	145,000
19	NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク	「第2回南会津馬搬フェス」	200,000
20	NPO法人はるなか	小田山・青木山等の里山再生 桜・漆の育樹管理事業	100,000
21	moconoco	県産木材利活用推進事業	200,000
22	ふるさとの川・荒川づくり協議会	森林・林業整備、森林教育学習	60,000
23	館岩地区林業振興協議会	すみやき復興・後継者伝承交流事業	150,000
24	台松塚館跡保存会	二本松市杉沢台松塚館跡公園造成事業	200,000
			3,680,800

平成26年度協賛金認定先

No.	事業者	事業名	協賛金額
1	県南地方林業協会	夏休み森林教室	200,000
2	福島県木材青壮年協会	第39回福島県児童・生徒木工工作コンクール開催事業	200,000
3	福島県林業祭実行委員会	第39回福島県林業祭	200,000
4	福島民報社	「2014吾妻山山開き」～吾妻の森に学ぶ体験教室～	100,000
5	福島民友新聞社	親子で学ぶ 子ども樹木博士プログラム	120,000
6	公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会	第11回ふくしま森林・林業写真コンクール	20,000
			840,000

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(12月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	10 (9~10)	0	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	13 (10~14)	0	8 (8~8)	0	11 (10~13)	△1	11 (8~14)	△1
	中	14~18	3.00	並	スギ	14 (13~15)	0	12 (12~12)	0	12 (10~13)	1	13 (10~15)	1
				並	ヒノキ	15 (14~16)	0	(0~0)	0	17 (16~18)	0	16 (14~18)	0
		6.00	並	スギ	18 (16~19)	0	12 (8~16)	4	16 (14~18)	0	16 (8~19)	0	
			並	ヒノキ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	23 (19~28)	0	24 (19~28)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	14 (14~14)	0	13 (12~13)	1	12 (9~14)	0	13 (9~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	11 (9~12)	0	(0~0)	0	9 (9~10)	0	10 (9~12)	0	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~8)	0	(0~0)	0	7 (6~8)	0	7 (5~8)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	31 (26~35)	0	31 (26~35)	0
並				米マツ	33 (33~33)	0	29 (29~29)	0	32 (28~35)	0	31 (28~35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	27 (26~28)	0	27 (26~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	33 (28~37)	1	33 (28~37)	1	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	5 (5~5)	0	5 (5~5)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	7 (7~7)	0	7 (7~7)	0	

十一月の原木市場への入荷状況は、前月比九割増(前年比三割増)の二九、八二七立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比五割増(前年比一割増)の二九、八九九立方メートルとなっている。
 十二月の価格については、保合が続いている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		8 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)		11 (10~12)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

平成二六年十月から南会津農林事務所へ、愛知県から派遣された中村です。
 特にこれといった話題はないのですが、一月七日にSさんとYさんに連れられて行った、柳津町の圓藏寺で行われた裸詣りを紹介します。
 このお祭りは、一本の縄に禪(ふんどし)姿の男たちが次々と登り、一年の幸福と無病息災を祈願するお祭りです。全国でも奇祭中の奇祭とも言われているお祭りみたいです。私は声援を送るだけでしたが、お堂内は男衆たちと観光客の熱気で盛り上がり、是非行ってみたいと思います。加も可能みたいなので、是非行ってみたいと思います。めっちゃ×2寒そうでした(笑)



お堂内の様子

南会津農林事務所 中村 祐二

十月に鹿児島県から南会津農林事務所へ派遣されて、あつと言う間に四ヶ月が過ぎ、鹿児島では経験のない冬に日々驚いています。
 一月二日には、南会津町田島でこれまでの観測史上最低気温とタイ記録のマイナス十九・七度を観測しました。その日の鹿児島県鹿児島市の最低気温は七・六度、気温差なんと二七・三度。
 なんとも不思議な感覚でした。また、通勤中は、寒さを通り過ぎて、痛みを感じました。
 この南会津町の冬は、忘れることはないと思います。(紅葉もきれいです。)
 鹿児島に帰ったら、半袖で火山灰を掃除していると思います。



鹿児島市から望む桜島



気温差に...!!

南会津農林事務所 阿久根 進

はなしの
ひろば

三月十一日

表紙の写真



「木材切り」

第11回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選した佐藤信一さん(福島市)の作品。

今年も三月十一日が巡ってくる。あれから四年が経過し、もう：なのか、まだ：なのか、それぞれに経過した時間の質や量感に違いはあるだろうが、三・一一を機にそれぞれの内で何かが変わったことだろう。この間、自からの命を守り、命を未来へ繋ぐための防災教育や放射能の研修会が広まってきた。また、帰還できた村もある。だが、その一方で私の叔父は、帰還困難区域の浪江町から県内を八ヶ所も避難し、仙台市でやっと落ち着いたのも東の方へ向い、一日も早く帰りたいと手を合わせていたという。まだまだたくさんの方達が、毎日手を合わせているに違いない。

しかし、それも今のフクシマだ。改めて、私は福島 of 被災地のどれだけを知っているのだろうか、と思う。

三月十四日から仙台市で「国連防災世界会議」が開かれる。また、福島県には原発対応や防災を担当する危機管理部が設置されるという。東日本大震災の教訓を生かし、世界で共有する枠組みづくりは勿論重要だが、どんな災害にあっても、人は人では救えない。

四月から本県でDCが繰り広げられ、観光情報には被災地の語り部の方々が登場する。さらに平成三〇年には、南相馬市をメイン会場に「全国植樹祭」が開催される。それぞれがそれぞれの役割分担の中で、福島が負った傷を癒したい、そんな強い思いの結果だ。

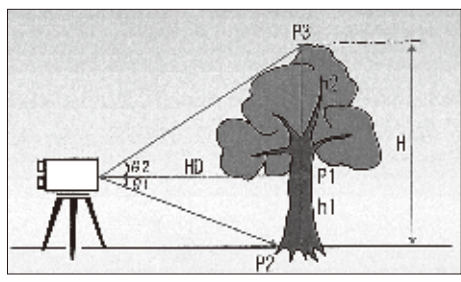
ところで、今年一月、阪神淡路大震災から二〇年が経ち「奇跡的な復興を遂げた神戸の町」と評された。二〇年経過後の福島には、果たしてどんな冠の言葉がつくのだろうか。(都)

編集 福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

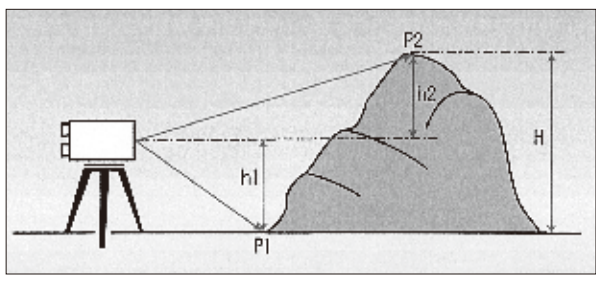
発行 相馬 陽光社印刷株式会社
発行人 馬 雅俊
(定価 一〇八円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

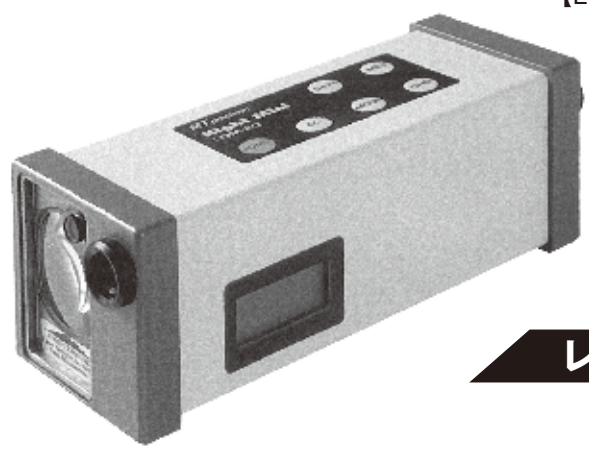


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	±5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

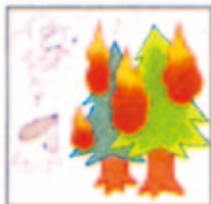
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



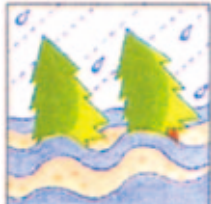
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



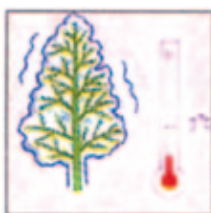
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課 Tel 024-521-7441

平成27年4月から名称が「森林保険」に変わります

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (巣退治)
ハチノックS (携帯用)

大切な日本の松を守る 住化グリーンの林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ

プロソー



竹もOK!
SR3000-2
出力 22.3kW (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)



GZ3900EZ
排気量 39.1cm³ (質量4.4kg)
RSP 21BPX 967159403 ¥108,000(税抜)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204
HM 21BPX 967159404
95VPX 967159305



GZ4300EZ
排気量 43.1cm³ (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥133,700(税抜)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1